



広島市仏教会主催
「花まつり」多聞院於

観音

平成8年3月
第24号

発集発行

広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-10
真言宗 正観寺
小出真行

信仰はこの世の旅路の糧であり

この上は、富である

法霊集より

『ボケないコツ』

おおむね、ボケやすい人とは……

- ① 口かずが少なく、人と話すのが嫌いで孤独な人。
 - ② がんこな人。
 - ③ ボヤク人。
 - ④ 短気な人。
 - ⑤ 物事に感激しない人……なのだそうです。
- あなたはいかがですか？……あてはまりますか？
でも心配しないでください。ボケ病にならないためには

- ① いつもニコニコすること
 - ② 人とよく話をする事
 - ③ 新聞を読むこと
 - ④ 苦勞をいやがらず何ごとも楽しんでやること
 - ⑤ まわりの人に感謝し、『ありがとう』を言えること
- だそうです。
- ポツクリ寺へお参りするのよいでしようが、こんなことを心がけ実行するだけでたいがいの「ボケ病」が防げるのです。さあ今日からでも実行しましょう！

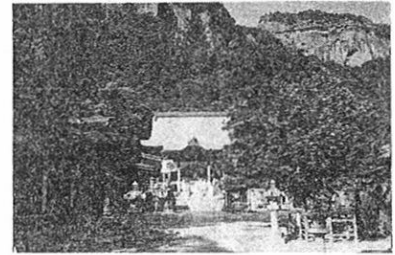
本四国(最終) 順拝の記

前号のつづき

川岡敏行

第3日5月27日(土) 快晴

旧海軍記念日。明治38年は日本海大海戦の日、こんなよいお天気だったろうか。4時目ざめ、登るがよいか悪いかスツタモンダの揚句、十余名の人たちが5時30分金毘羅宮本殿参りに出発。7時30分朝食、8時10分出発、20分76番鷄足山金倉寺(葉師如来)同市金蔵寺町。乃木將軍妻返し(明治31年12月31日)のある札所と憶えておけばよい。50分77番桑多山道隆寺(葉師如来)中多度津町北鴨。府中町水分にも同山号、同寺名、同本尊、同じような由緒のお寺があるが、参道右側に並んだ交通安全祈願の観音様の多いこと(千体)。みなさん、交通には、いつも、くれぐれも油断なく、気をつけましょう。丸亀市は、人口12万人。団扇の名産地。港と城を持ち、企業としては四国化成(添乗員説明)。9時25分78番仏光山郷照寺(阿弥陀如来)綾歌郡宇多津町。中央に本堂、左側の石段を登ると大師堂、その手前に、万體観音を安置した洞窟がある。サツキの手入れがよい。近くの高橋餅店の主人は、わたしたちのお参りを見すましたように名物の地蔵餅を丸め始めた。それを見てお接待にと、とんで行った人は、



H. 7. 5. 27 (土)
82番青峰山 根香寺
本尊 千手千眼
観世音菩薩
(高松市中山町1506)

青峰山は松が多い。その他、モミジや杉も。山麓にはミカン、ビワも多い。高松市営球場は近い。

誰だっけ。10時79番金華山高照院(天皇寺、十一面観音)坂出市西庄町字天皇。長寛2年(1069年)、このお寺に配流の生活を送っていた、第116代崇徳天皇が歌会出席の途中、亡くなられ、21日間安置され、81番白峯寺で荼毘にされた。よって、天皇寺といわれる。50分80番白牛山国分寺(十一面千手観音)綾歌郡国分寺町国分。ご本尊は、一木造りの高さ5.2mの立像(祕仏)。国分寺を去り、ビワ、ミカン畑の多い白峰山(高さ337m)の斜面をだらだら登りつきたところに、11時40分81番総松山白峯寺(千手観音)坂出市青海町。江戸時代中期の上田秋成の「雨月物語」の明文がのせられているが、こんな不便な山奥まで崇徳天皇を弔われたものだと思われる。また、温暖な讃岐のこの地に年何回くらの降雪が記録されるのか知りたい。12時かんぽ坂出で昼食。前回、雨中、宿泊したところ。46分82



H 7. 5. 27 (土)
85番五剣山 八栗寺
本尊 聖観世音菩薩
住職 中林龍信(木田郡牟礼町大字牟礼3416)
山頂からは八ヶ国が見えるので八国寺とされた。大師が入唐前に植えた八箇の焼栗が帰国後すべて生長したので、八栗寺に改められた。

番青峰山根香寺(千手千眼観音)高松市中山町、青峰山は、名の通り、松、杉、モミジが多い。山麓には、ミカン、ビワの栽培さかん。昔、香木で観音像を刻み安置したところ、その香木の根の香りが高いので寺名となり、香りが川に流れて香るので「香川」の県名がつけられたとか。次の札所までは18km。13時53分83番神臺山一宮寺(聖観音)同市一宮町。ここへ来るまでに、夫婦づれの歩き遍路の姿をチラッと見た。羨ましいことだ。14時30分薬草センターで薬草を学ぶ。栗林公園。みかげ石の庵治町、五剣山の牟礼町を経て、桜並木の美しいケイブルカーを利用し、15時35分85番五剣山八栗寺(聖観音)木田郡牟礼町牟礼。名は五剣山といえど、宝永3年(1706年)の地震のため、東の峰が崩れ、今は四峰になっているとか。大師が入唐前に植えた8箇の焼栗が、帰国時生長したので八栗寺といわれる。



H 7. 5. 28 (日)

同前 日の出

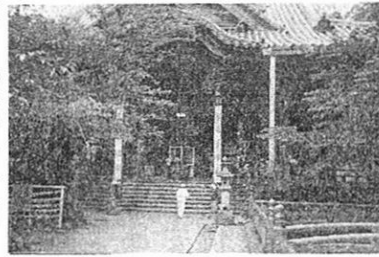
八栗寺と源氏の舞

甚五郎ホテル屋上の露天風呂(朝湯)は壮快な眺望を楽しめる。

眺望のよい有料道路を登り、16時38分84番南面山屋島寺(十一面観音)高松師屋島東町、源平の古戦場「壇ノ浦」などの古跡が展望できる。壇ノ浦は関門だけかと思つたら、そうではなかった。ここで感動したのは、納経所前のベンチで、50日間歩き通しの老遍路(男)に出会ったことだ。きょうが48日目。すり減った杖の先が、長い旅路の苦勞を物語つて余りがある。聞けば、足にタコが何回できたか知らないという。昨秋45番岩屋寺で奇遇した、別府市の歩き遍路山口先達と同じような姿、めがねの奥の眼が澄んで美しい。きつと、亡妻供養のための修業だろう。仲居さんの案内によるバスで、17時5分屋島甚五郎ホテル(高松市屋島山上1300円)泊、玄関前で、谷をめぐけてしばし皿投げを楽しむ。4階展望石風呂。18時30分夕食、久しぶりにシャブシャブにカキフライなど。20時30分消灯。

第4日5月28日(日)晴時々曇

4時57分きのうの八栗寺と源氏の舞の日の出を拝む。6時露天風呂の朝風爽快。7時30分朝食。8時10分出発、30分86番補陀洛山志度寺(十一面観音)大川郡志度郡志度町。仁王門を入ると、左に海女の墓がある。



H 7. 5. 28 (日)

2番紀三井寺本堂

西国三十三観音霊場

花の三井寺も五月下旬ともなれば、客はほとんどなく淋しい。

謡曲「海女」で知られる。松並木のむこうは、志度湾で、久しぶりに、瀬戸内海の潮の香を嗅ぐ。志度寺をあとに約7km山間に入ると古い町並み、9時25分87番補陀洛山長尾寺(聖観音)大川郡長尾町西。天台宗に改められたのは、天和元年(1681年)という。ここから、次の札所までは17kmあるそうだが、結願も近いとあれば、今までの苦勞も忘れそう。前山ダム、前山小学校などを経て、10時27分88番医王山大窪寺(結願寺、薬師如来)長尾町多和兼割。32分本堂前で2回目の記念撮影(室津写す)。ここに、八十八ヶ所唯一の原爆供養塔がある。



H 7. 5. 28 (日)

紀三井寺の名水

1. 清浄
2. 楊柳
3. 吉祥

三井水それぞれのいわれが石段に沿って掲示されている。

11時民宿野田屋で昼食。おめでたい赤飯が振舞われた。また、讃岐うどんも。先客の団参は、乾杯したらしいビール空瓶とコップ。前回の宿舎「八十八窪」を捜したら、荒屋がしゃれた民宿に改装されていた。さて56番から88番まで順拝して、ふしぎに思ったことは、大震災救援の義援金箱が、一箱も置かれていないことだ。車中で、ご詠歌を練習できたのはよかったが、男性の声ばかり。時には女性の声があれば変化があつてよかったかも。13時10分1番竺和山霊山寺(釈迦如来)徳島県鳴門市大麻町板東。みやげ物屋(門前街という)が、すっかり装いを新たにしていた。55分大鳴門橋、14時18分津名町、1億円の金塊の町。29分津名港着、船待ちの間、車中でカラオケ、詩吟など。船待ちの約1時間は、各寺の見学にあててもよかったかも。見渡す埋立地は被災の瓦礫の山。北淡町などの被害を想

像するだけ。15時30分発大阪湾フェリー車満載。16時30分深日港着。通りすがりの小さなパン屋の店先に置かれた募金箱。日曜日の夕方とあって渋滞あり。17時25分西国33観音霊場2番地三井寺着。花の三井寺も、5月下旬ともなれば、客は殆んどなく、淋しい。三井名水（清浄、楊柳、吉祥）を知る。18時はやし旅館泊。19時夕食。紀州は魚どころ。さすが魚の種類が多い。ここで打上げのカラオケ。みなさん、自慢のものを披露される。楽しみなクジ引。

『生きる』

「涅槃経」に説かれています。四句の偈は、宇宙の真理である所の有為無常を端的に説き明かし、更にその有為無常を超越すると、そこに永遠不滅の悟りがひらけてくることを説き明かしたものです。この四句の偈に基づいて弘法大師は「いろは歌」を作られました。

諸行無常 いろはにはほへとちりぬるを、
 是生滅法 わかよたれそつねならむ、
 生滅々已 うゐのおくやまけふこえて、
 寂滅為楽 あさきゆめみしゑひもせず。
 諸行は常なり。永生滅の法なり。生滅を感じてれば。寂滅為楽なり。

また、かの『平家物語』の巻頭に「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹

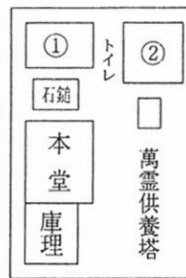
の花の色、盛者必衰のことわりをあらわす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし、猛き者も遂には亡びぬ。ひとへに風の前の塵に同じ」とあるのも畢竟はこの四句の偈の思想の強い影響の表れなのです。

世の中のありとあらゆるものは、常にうつりかわって一刻といえども留ることなく、刻々と変化し続けるものであり、これを生滅の法と名づけているのです。いつまでも生きていられるものと安閑として日々をぼんやり暮らし、鳥部山の煙となつているのは、自分（それ）には何のかわりもない人であり、黄泉の客となつて旅立つて散り行く人は、よその人であると思つていから、のんびりとしていられるのです。人の命は朝露のようにはかないものであることに、しっかりと心の眼を覚ませば、生のはかなさに悩み、死の悲しさにおののき、不安と苦しみにさいなまれるのが私達人間の心情なのです。

そこで、この生になやみ、死におののく自分が苦悩の境地を修養の力、信仰の力によりて超越すれば、そこにおののく悟りの安らかな境地がひらけて、何物にもわずらわされず朗々として永遠に生き抜くことができます。さあ皆さんいかがですか？

『墓地について』

昨年、一昨年と本堂前、横に墓地を整備しました。真言宗以外の方も相談に応じます。



※尚、②の墓地は、一㎡からお譲りします。

平成八年度 年中行事

- 一月一日 (諸祈願) 〇三日
- 二月 三日 (土) 星祭り
- 三月一〇日 (日) 観音大祭 (大柴燈護摩供)
- 三月二〇日 (水) 彼岸中日 (春分の日)
- 三月二七日 (水) 小豆島巡拝
- 〇三〇日 (土)
- 七月 三日 (水) 石鏡山参拝
- 〇四日 (木)
- 八月一五日 (木) 禅餓鬼供養
- 八月二四日 (土) 地藏祭
- 九月二三日 (月) 彼岸中日 (秋分の日)
- 一二月三一日 (火) 年越祭
- 五月一八日 (土) 観音縁日